

日本語教師に必要な カウンセリング技術(6)

小松慶子 (こまつよしこ)
元流山市教育委員会カウンセラー

コミュニケーションと言葉

人間関係、とくにコミュニケーションの関係を成り立たせる主な要素は言うまでもなく言葉です。

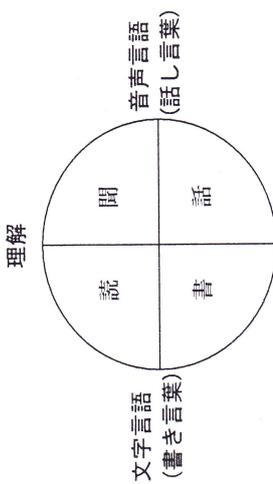


図1: 言葉によるコミュニケーションの四領域

この四つの活動領域をむずかしい順にあげるとどうなるでしょうか。おそらく「書く」ことが一番難しく、「読む」ことがそれに次ぎ、読むよりは「話す」ほうがやさしく、「聞く」ことが最もやさしいと考えがちではないでしょうか。聞く能力は誰でも日常生活の中で自然に身につくものという思い込みがわざわざいっているようです。

「聞く」ことは「読む」こととは違った行為です。読み手は自分のペースで進め、気の散らない環境を選択し、いつでも一人で読みふけることができますが、聞き手は話している人のペースに合わせていかなくてはなりませんし、話し手をいつも選ぶというわけにはいきません。多く人数で聞く機会のほうが多く、そのときはとくに注意散漫になりがちです。

人々が起きている時間の平均約80%は何らかのコミュニケーション活動に費やしていますが、その内の約70%が言葉によっています。

日常生活を言葉の面からみると、文字を使って読み書きしている時間よりも、話したり聞いたりしている時間のほうがずっと多い。話すことより聞くことのほうにはるかに多くの時間を費やしているのです。

言葉によるコミュニケーション活動の内訳

書くこと	9%
読むこと	16%
話すこと	30%
聞くこと	45%

アメリカのランキンケンヤンやスウェインらの調査報告による

「聞く」ことは、読んだり、書いたり、話したりすることにくらべて受動的な活動だと思われ、「聞く」ことはやさしいと思っているから「聞く」ことの重要性や「聞く」訓練の必要性に対する認識や自覚がとぼしいわけで、私たちの日常生活は聞いているようで「聞いていない」から無理解や誤解や偏見にみちた人間関係になってしまっているのではないのでしょうか。

「書く」とは...

hear...聞く→漠然ときく
(門の外の音、電車の音、人の話声など、さまざまな音をきく)
listen...聴く→意識を集中し耳と心を傾けて聴く

では、どうすれば「聞く」態度が改善され、「聞く」能力を高めることができるのでしょうか。その具体的な方法を示唆しているのがカウンセリングの原理です。

人の話をきく場合には傾聴という姿勢が大切です。

傾聴とは...

1) 感じ取る	1)~4)の心のはらきをともなった積極的な精神活動です。
2) 注意を向ける	
3) 共感する	
4) 記憶する	

(続く)

MJOT

会報

第11回日本語スピーチ コンテスト開催について (スピーチコンテスト 実行委員会より)

4月25日(金)に国際交流基金ブダペスト事務所会議室において「第11回日本語スピーチコンテスト」の第1回実行委員会が行われました。今回の実行委員は以下の9名です。

- 大使館 白石書記官
- 国際交流基金 古屋所長
- 齊藤 日本語教育アドバイザー
- 国際協力事業団・青年海外協力隊 木村所長
- 北山調整員
- 鈴木隊員
- 沖本隊員
- MJOT フォリス ス 後藤

- 開催時期 2003年11月8日(土) 12:30 開始予定
 - 開催場所 日本大使館 多目的ホール
 - 参加資格 一機関3名まで。
▼満6歳以降滞日経験3ヶ月未満の者。
▼母語が日本語以外の者。
 - 各部門
①高校生以下の部 (8年生以下も含む)
②大学・一般の部
③パフオーマンズの部 (8年生以下、グループ参加可)
テーマ 自由 (特に設定せず)
(テーマ案を提示するのでそれを参考にして良い)
 - 応募方法 9月30日消印有効で基金へ書留郵送または持参する。
- その他詳細は『募集要項』参照のこと。

実行委員会では5月9日(金)にJICA事務所にて『募集要項』等の書類発送作業を行いました。また、第2回実行委員会は6月27日(金)です。それまでにスピコンに関しましてご質問やご意見などありましたら、後藤 (fumi0627@hotmail.com)へご一報ください。

語彙集販売のお知らせ

販売元: 商科大学貿易学部東洋語科
価格: 1冊 850円

購入希望者は商科大学(467-7965, 467-7961)、または相馬 (shoko@hu.inter.net, 326-0898) まで。
相馬 瑠子

最近かじった論文から

「感情と言語学習」

外国語の学習や使用に感情的側面は重要な地位を占める。以前は感情的側面はその人の性格の問題とされてきたが、実際には感情の多くが認知と結びついている。ということは認知をコントロールすれば、感情的側面もある程度まで自己制御できると言える。

感情的側面の自己制御でまず大切なことは、自己の感情傾向を知ることである。例えば、外国語の習得(acquisition)、記憶(retention)、産出(production)に干渉する可能性がある感情として「不安」がある。MacIntyre-Gardner (1991)はこれを①性格レベルでの「習性不安」②テスト前など、誰もが緊張する「状態不安」③例えば語学の授業で感じる「特別状況不安」の3つに分類しているが、このうち「習性不安」や「特別状況不安」については例えばSpielberger(1983)が開発した STAI (the State-Trait Anxiety Inventory) を使って自分の傾向を知ることができ、また外国語学習という特定状況での不安に関しては、Horwitz(1986)の開発した FLCAS (The Foreign Language Classroom Anxiety Scale) を使って自分の傾向を知ることができ、(後者にについては <http://www.wfu.edu/users/hornlm2/IRB%20Proposal.pdf> で実例を見ることができ)

次に大切なのは感情的側面を制御するためのストラテジーを持つことである。オックスフォード(1994)は学習ストラテジーの中に情意ストラテジーも組み込み、それを以下のようにリストアップしている。

- A 自分の不安を軽くする
 - ・呼吸法・瞑想・音楽・笑いの活用
 - B自分を勇気づける
 - ・言葉や報酬の活用
- 例「間違っているかもしれないが、言いたいことは言えた。」

例「今日はいまぐわいした。ビールを飲む！」
C感情を把握する
・体調検査・学習日記の活用・感情についての意見交換など

自分の感情をモニターすると、その原因がいろいろと見えてきて対策もたてやすくなる。例えば学習目標が原因となつている場合には、目標を自分用に調整すればいいし、設定目標に達しなかつた場合でも、「ここまででできればよししよう。」と考え直せばいい。また、他者からの評価が原因でやる気をなくした場合は、過去の自分と比較したりして自身で評価しなおせばよい。

つまり学習者が「外国語を学習したり、使用したりするのは、自分なのだ。だから学習目標は評価も自分の目的と必要性、あるいは適正や性格に合うように行えばよいのだ。」と思えば、感情のコントロールも可能になるのである。
(若井)

Bernard Dufeu(1994) Teaching Myself. Oxford University Press. 1994.

Horwitz,E.K.; Horwitz,M.B.; Copc,J.(1986). Foreign Language Classroom Anxiety. Modern Language Journal,70,125-132

MacIntyre, Peter D. Gardner, Robert C. (1991) Methods and Results in the Study of Anxiety and Language Learning :A Review of the Literature. Language Learning 41:1, March 1991, pp. 85-117

Spielberger, C. D. (1983). Manual for the State-Trait Anxiety Inventory (STAI). PaloAlto, CA: Consulting Psychologists Press.Rebecca

オックスフォード、レベッカ(1994)「言語学習ストラテジー-外国語教師が知っておかなければならないこと」矢戸・伴訳、凡人社

三宮真智子(1997)「認知心理学からの学習論-自己学習力を支えるメタ認知-」鳴門教育大学紀要(教育科学編) 第12巻

ハンガリー日本語教師会会報第7号(2003年5月15日発行)発行所: MJOT (担当: 若井誠二)

MJOT ハンガリー日本語教師会セミナー・その他 今後の計画

5月30日(金) 16:30~

基金 Bp. 事務所会議室

- ▼ 「ひらがな・カタカナ練習帳」の紹介
- ▼ 「在外邦人日本語教師研修会」報告

発表者: 佐藤紀子さん

6月6日(金) 14:00~14:45

テレーズ・ヴァーローツンユ2カ国語高校

1065 Bp. Petho Sandor u.4

- ▼ 日本語授業の見学
- ▼ 授業担当: フォリス・イベットさん (13:45 同校玄関前集合)

6月6日(金) 16:30~

基金 Bp. 事務所会議室

- ▼ 「授業見学の後に」(話し合い)
- ▼ 担当者: フォリス・イヴェットさん

6月20日(金) 16:30~

基金 Bp. 事務所会議室

- ▼ 高校卒業試験を考える会
- ▼ 「高校卒業試験を終えて」(アンケート調査と結果報告)

担当者: 相馬莠子さん

9月19日(金) 17:00~

基金 Bp. 事務所 図書室

2003年 MJOT 総会

学会・国際会議のお知らせ

第8回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム

2003年9月12~14日

スイス・ベルン大学

(内容)

基調講演: 鈴木孝夫 慶応義塾大学名誉教授

講演: 加藤清方 東京学芸大学教授
講演: 二宮正之 ジュネーブ大学教授
ワークショップ
パネルディスカッション
(ヨーロッパからの発信一)

詳しくは以下のホームページアドレスまで
<http://castelji.soken.ac.jp/groups/aje/Pages/info.html>

第16回日本語教育連絡会議の御案内

2003年8月1~3日

スロベニア・リュブリャーナ大学

詳しくはリュブリャーナ大学文学部アジア・アフリカ学日本研究講座まで
(kristina.lmeljak@guest.arnes.si)

日本語教育国際研究会

2003年8月8・9日

昭和女子大 (東京都世田谷区)

詳しくは

<http://www.wsoc.nii.ac.jp/nkg/kenkyu/2003-kokusai/vc03.htm> まで
(伊東さんより)

教科書完成!

3月末にJOCVの日本語教師有志で作成された教科書「ハンガリー人のための日本語I」が完成しましたのでお知らせさせていただきます。

この教科書はハンガリー中等教育機関向けに作られたものです。本来は2冊目までであるのですが、今回はIの完成までです。レベルとしては初級の前半程度になっています。

今のところはJOCV隊員に希望数を配布した他、国際交流基金の図書室にもおかせていただきました。中等教育機関で教えられている先生方はもちろん、他の方々にもぜひ見てもらえたいと思います。

教科書は販売はしていませんが、希望がありましたら中村(nseiko323@hotmail.com)までお問い合わせください。よろしくお願致します。